

つなぐ〜人の温もり〜

今年、西日本を襲った記録的な大雨。私たちの住む糸崎・木原にも大きな被害をもたらしました。

私のクラスにも家に土砂が流れ込むなどの被害を受けた仲間がいます。夏休みの間、土砂の撤去作業に追われたり、仮の住まいに転居したりしています。また、三原は断水になったため、私も給水活動を行いました。私は祖父母の家に井戸があったので、比較的簡単に給水ができましたが、給水所に行った人は、重いタンクやペットボトルを持っていたので、大変だったと思います。

そんな辛い災害の中、人と人とのつながりを感じた出来事があります。それは、いつもいく美容院の方が「断水で大変だろうからシャンプーしてあげるよ」と声をかけてくれたことです。災害時にゆっくりお風呂に入る余裕もなかったのですが、とても気持ち良かったです。また、普段は連絡を取り合うことの少ない友だちも、気遣いの連絡をくれたり、非常食や災害の時に役立つ道具を送ってくれたりしました。災害による大変な被害の中で、こうした人の温もりを感じることができ、ありがたく、そして嬉しくも思いました。

そして、人と人とのつながりは私の学校でもありました。一中の生徒会執行部では、9月の運動会で西日本豪雨災害の募金活動を行いました。運動会にいらしていたほとんどの方が募金に協力してくださり、私は、復興を願う思いや、助け合いの精神を肌で感じることができました。

今回の豪雨災害は、大変な被害を受けただけで、その中で知った三原の良い所もありました。辛い時、苦しい時こそ協力し合えるようなそんな心温まる地域であってほしいなと思います。今まで以上に発展し、今まで以上に笑顔が溢れることを願って。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第35回 —

「ちんこんかん」への思い

沼田小学校では、「沼田小ちんこんかん」に全校で取り組んでいます。それは、沼田に古くから伝わる「ちんこんかん」という、五穀豊穡を願った雨ごいの踊りを基につくられているものです。「ちんこんかん」は、広島県無形民俗文化財に指定されています。

「沼田小ちんこんかん」は、ホラ貝の音で始まり、鉦の音に合わせて、大鼓・八ばち・棒振り・鬼が、心一つにして演技します。少しでも音がずれると、全体がバラバラになってしまいます。

「沼田小ちんこんかん」は、前の学年が次の学年に教えていく伝統があります。私は、五年生から鉦の担当をしています。四年生の三学期、当時六年生だった鉦の担当の人から、鉦の速さとリズムの取り方について、教えてもらいました。初めのころは、一定の速度でたたいたり、大きな音を出したりするのは、できませんでした。しかし、あきらめずに一生懸命練習をすることで、今は自信をもってたたけるようになりました。

私は、地域の「ちんこんかん」にも参加しています。中学生や高校生、大人と一緒に踊ります。大人がたたいたり、踊ったりすると、すごく迫力があります。大人の中には、遠くに住んでいても「ちんこんかん」を手に、わざわざ帰って来られる人もいます。あまり練習する時間はないけれど、沼田にすばらしい「ちんこんかん」を残したいです。

「沼田小ちんこんかん」も、沼田の「ちんこんかん」も、大切な文化・伝統です。これからも、次の世代へ受け継いでいけるよう、私がんばっていきたいです。

